

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立筑紫中央高等学校(全日制課程)

自己評価
学校運営計画(4月)
学校運営方針
昨年度の成果と課題
評価項目
学習指導
生徒指導
進路指導

学校関係者評価
評価(総合)
自己評価は
A: 適切である
B: 概ね適切である
C: やや適切である
D: 不適切である
項目ごとの評価
学校関係者評価委員会からの意見

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(最終)	成果と課題、他分掌への提言		
企画広報	儀式関係行事の円滑な企画と運営	各分掌との連絡・調整を密にし、業務の分担を確実にする。	A	各分掌との連携・調節を行い、円滑に運営できた。一方で、特定の人物に業務が重なっていることもあるため、誰でも担当できるシステムの構築が必要だと考える。		
		危機管理マニュアルや防災避難訓練の内容を充実させる。	A			
		行事予定を早期に計画し、会議録の作成と資料保管等を確実に行う。	B			
	学校内外向け文書の作成と生徒の就学支援	学校要覧、入学の手引等各種文書の迅速かつ正確な作成に努める。	A		A	学校要覧、各種奨学金の手続きなど滞りなく運営できた。来年度は新校舎への引越し作業を含めて年度末・年度初めの業務が多忙となるので職員配置や業務を早めに取りかかりたい。
		各種奨学金の案内や手続きを円滑に実施し、生徒の就学支援に努める。	A			
		新転任オリエンテーションや職員室配置等、年度末・初めの業務遂行に寄与する。	A			
	学校内外に向けた広報活動の充実	ポスター・パンフレットの内容を充実させ、中学校や塾に配布する。	A		A	ポスター・パンフレットの作成、HPやInstagramへの投稿も充実できた。さらに、第5学区進路相談事業や中学生体験入学の充実を図り、志願者の増加に努めたい。
		中学生体験入学の実施方法や内容を再検討し、志願者の増加に寄与する。	A			
		中学生や中学校PTAの学校訪問受け入れ、HPの充実を努める。	A			
	PTA活動の支援	PTA及び同窓会との連携を推進する。	B		B	PTA総会やPTA新聞の発行に関して遂行はできたが、PTA委員会における保護者と先生方の連携があまり密にできなかった。今後の課題としたい。
PTA総会や役員会等の円滑な運営を行い、PTA活動の活性化を図る。		B				
各委員会の活動記録を取り、来年度の活動に還元する。		B				
情報	ICT活用環境の整備(ハード面)	Chromebook等のICT機器の維持管理、スムーズな授業運営の維持・管理に努める。	B	A	タブレット端末研修への参加率が低調で、タブレット端末に対する職員の意識を今以上に向上させる必要がある。タブレット端末は学校へ配付されたが、機器の管理体制の構築が急がれる。	
		校内の状況に合わせ、スムーズな機器購入・運用管理に努める。	A			
		ICTに関する各種相談に積極的に応じ、ICT環境の維持・向上を図る。	A			
	ICT活用環境の整備(ソフト面)	学校ホームページの維持管理、更新を適切に行う。	A		学校ホームページに関しては、更新スピードのさらなる向上を目指す。学力検査に関し、入試データベースソフトを使った入試システムの運用・管理ができる人材を今後も育成しなければならない。	
		学校行事の写真等、デジタルデータの維持管理を行う。	A			
		ICT機器の管理・運用および応用ができる人材の育成に努める。	B			
統合支援システムの維持・管理	教務課と連携して、統合支援システムの成績・欠欠の管理を行う。	A	A	本年度の統合支援システムの運用は軌道に乗り始めた。今後も教務課・進路指導課との連携を密にして、統合支援システムの運用・管理ができる人材の育成に努めなければならない。		
	進路課と連携して、調査書のスムーズな維持管理に努める。	A				
	統合支援システムの運用管理ができる人材の育成に努める。	B				
保健	学校保健活動の充実を図る	定期健康診断、健康増進事業の充実により、生徒の健康を保持増進する。	A	A	今年度は1学期にほぼすべての検診が実施でき、保健委員もかなり協力的に動いてくれた。献血も事前承諾書では20名ほどしかいなかったが当日に多数の生徒が協力し、さらに先生方も協力してくださって2倍以上になった。	
		保健委員をリーダーとして育成することで、学校保健活動の啓発を推進する。	A			
		献血事業への協力により社会貢献意識の向上を図る。	A			
	教育相談の充実を図り、心の健康の保持促進を図る	教育相談委員会や学年教科連絡会を通して、情報の共有化を図る。	A		A	昨今、複雑な家庭環境の生徒が増えて問題も多様化している。個人情報保護の観点と情報の共有化を図りながら、担任が一人で抱え込まない組織体制を構築する。生徒と保護者への誤解を回避するためにも指導の記録を正確に残す。
		担任、学年分掌、特別支援教育コーディネーター、養護教諭との連携を図り、欠席日数が増加傾向にある生徒や支援を要する生徒に対して、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、訪問相談員等の協力を積極的に得ながら、早期対応を行う。	B			
		美化強化週間を通して清掃活動の見直しを図り、さらに徹底させることにより、環境衛生活動の意識向上を図る。	B			
	美化清掃に努める	ゴミの減量化と分別指導の徹底により、循環型社会の形成者としての資質を育成する。	A		B	中間反省をもとに美化強化に努めた。特に今年度、一般公開にした幸都祭では、効果が表れて前向きに清掃に取り組めた。職員間の「ペーパーレス」化はポータルサイトの活用でかなり進んだ。さらに職員の意識向上を図るとともに印刷の必要なものと不必要なものとの区別を図りたい。
		行事前美化点検や校外行事での清掃活動を主体的に取り組ませ、美化委員のリーダー育成を図る。	B			
		職員間におけるペーパーレス化を推進し、生徒への印刷配布物についても紙資源の有効活用を促す。	A			
蔵書の充実と広報活動に努め、図書館の利用者を増やす。		B				
図書	図書館活動の推進を図る	図書委員会における活動を通して、図書委員のリーダー育成を図る。	A	A	図書委員合同研修会への参加、外部講師を招いてのPOP講習会の開催などリーダー育成や広報活動は順調に行うことができた。課題等に追われ朝読書に取り組めない生徒が散見するクラスがあった。クラス毎の読書本の貸出は予定通り行うことができた。	
		朝読書の充実を図る。	A			
		刊行物(校誌・図書館報・PTA新聞など)の内容の見直しをして充実を図り、より良いものにしていく。	A			
	芸術鑑賞を通して、豊かな感受性を育成し、感性を磨く	原稿依頼の時期や回収方法の改善と全体への企画募集等を検討する。	B		A	校誌・館報は2月末の発行を目指し、予定通りに作業を進めている。原稿依頼は早めに行っているが回収には苦勞をしている。館報については内容を刷新した。PTA新聞については、次年度は引き継ぎを丁寧に行いたい。
		芸術文化の素晴らしさを認識させ、伝統と文化を尊重する態度を育成する。	A			
		芸術鑑賞を通して、社会で必要なマナーなどの向上を図る。	B			
研修	職員研修の充実	演目の内容を事前に知らせ、内容の理解が深まるようにする。	A	A	公演団体と密に打ち合わせを行い3年ぶりの実施に至った。生徒の反応も大変よくこの行事の必要性を感じた。次年度の演目を検討中である。	
		教科毎にテーマを定め、全ての教科でICTを活用する。	A		いじめ防止・SSW・心肺蘇生法、ICT機器の取扱いに関する研修会を実施し、成果があった。相互授業参観や授業アンケート、研究授業等も概ね十分だった。	
		ICT活用・AL型授業などのテーマを決めて研究授業・相互授業参観を実施する。	A			
	職員研修会を充実させる。	A				
	人権意識の高揚	人権同和教育についての職員学習会など事前準備を徹底する。	A		A	人権同和教育は準備・内容ともに計画通りに進めることができた。人権読み物企画は3学期の実施を検討している。
人権意識強化週間を設け、読み物企画を実施する。		B				
		ホームルーム等を活用して道徳的教育を行う。	A			

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・適切である。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(最終)		成果と課題、他分掌への提言	
第1学年	授業を中心・大切に学習の確立と基礎学力の向上	基礎・基本の内容理解に徹底した授業を展開する。 常に学習習慣を見直し、アップデートさせながら自学の習慣を確立させる。 大学入学共通テストについて研究し、生徒が共通テストに対応できる力の養成を図る。	A B B	B	A A A	<p>中学と高校の学習速度や難易度の違いに適応させながら、ICT機器やAI型の授業展開が進めることができた。新課程入試の全容が判明していく中で、最後まで粘り強く頑張れるよう、より一層基礎・基本の徹底を意識して取り組んでいきたい。</p> <p>学校行事や学年行事において核(リーダー)となる生徒が徐々に表れているため、今後も引き続き自己存在感や本校への帰属意識などを持たせ、主体性を育てていきたい。その中で、「18歳成人」を念頭においたルールやマナーについても理解させ、社会人としての意識の高揚に努めていきたい。</p> <p>積極的に生徒へ声かけをし、変化を見逃さない姿勢を今後も継続して行う必要がある。また、授業をはじめ、行事などを通して生徒たち自身が考え、判断し、それらに基づき行動が伴うように指導を進めていきたい。</p>
	自分で考えて主体的に行動する生徒の育成	挨拶の励行、身だしなみ・時間厳守・清掃の指導を徹底する。 学校行事などを通して、集団の一員という自覚を促し、集団での適切な振る舞いを身につけさせる。 将来に具体的な目標を掲げさせ、生徒の職業観・勤労観を育成・向上に努める。	B A A	A		
	人を思いやり、自他を敬愛し、尊重する態度の育成	生徒の日常に目を向け、不適切な振る舞いにはその都度声を掛け正していく。 失敗を糧として感動体験や成功体験を味わわせる場面を設定し、自己肯定感や帰属意識を高める。	A B	A		
第2学年	学ぶ意欲と基礎学力の定着を図り、一つ上のレベルを目指すための学習環境をつくりあげる	基礎・基本の更なる定着を目指し、それを発展させ独自の学習スタイルを築かせる。 家庭学習の習慣を確率させ、学力向上を目指し継続的に努力できる生徒を育てる。 定期的な面談を実施し、生徒自身の学習状況と課題を明確にさせる。	A A B	A	A A A A	<p>家庭学習の定着が習慣化されていない。学習時間調査でも2学期になり学習時間の減少が見られる。日頃の課題・週末課題等に関しては丁寧に準備し、生徒への提示を行いつつ実施していくように今後も生徒に指導を行っていく。</p> <p>卒都祭では、リーダーとして積極的に学校行事に関わり、成長している姿を見せてくれた。修学旅行でも自主的な行動を見せてくれる生徒が多く見られた。まだまだ「集団」としての力は強くないが、これからも本質を見つめ自主的に行動できる生徒の育成を支援していきたい。</p> <p>課外の受講率が減少している。課外そのものの在り方、受講の仕方、生徒の取り組みへの十分なサポートができていないか、など今後しっかりと議論をしていく必要がある。</p> <p>地域貢献としては、大野城市市制50周年事業、冬季休業中には放課後ランドセルクラブの活動に参加するなど、2年生を中心に地域事業に積極的に参加することができた。様々なことに積極的にチャレンジする生徒をこれからも支援していきたい。</p>
	筑紫中央を支え、発展させる担い手となる意識を高める	体育祭や卒都祭など、学校行事に主体的に参加し、多くの生徒がリーダーシップやフォローシップを発揮できるようにさせる。 新たな取り組み(修学旅行・地域探究)を成功させる。	A A	A		
	自らの将来を、本気で考え、創造できる生徒の育成	1学期は学部学科研究、2学期は未来予創図、3学期は志望理由書の作成を軸に進路研究を充実させる。 課外・土曜セミナー・校外模試を効果的に活用する。	A B	A		
	筑紫中央高校が「誇る」生徒になるための人間力の育成	部活動や学校行事・校外行事に積極的に参加させ、地域貢献を奨励し、学校への帰属意識を高める。 生徒が失敗を恐れずチャレンジができる環境づくりをする。	A A	A		
第3学年	生徒全員の希望進路実現	「授業中心」をモットーに生徒が勉強を進められるよう、授業内容の充実を図る。 こまめに面談を行い、生徒の状況をつかむと共に適切なサポートを行う。 生徒が勉強に取り組みやすい雰囲気クラス・学年で醸成する。	A A B	B	A A A	<p>受験に対してよく取り組んでいる生徒は多い。その一方で、焦りや不安を抱える生徒も多く見られるので、こまめに声を掛けながら、全ての生徒の進路目標実現に向けて支援していきたい。</p> <p>体育祭は実行委員、リーダーを中心にどの生徒もよく取り組み新しい形の体育祭をしっかりと作りあげた。ここで身につけた力を今後も活かせるよう指導していく。</p> <p>他者の立場や気持ちを思いやり、自分以外の人を理解しようという意識について何度か話をしてきた。今年度成人になることも踏まえ、集団の中で自分が果たすべき役割を自覚し、それを責任を持って実行できる力を養っていききたい。</p>
	最高学年としての自覚の涵養	実行委員を中心に3年生全員が力を合わせ、新しい形の体育祭を成功に導く。 部活動を始め、日々の活動の中で下級生の模範となる姿を見せていくよう自覚を促す。 体育祭・校則等が変化していく時期の最上級生として「新生筑中」を良い方向に導く立場にあることを自覚させる。	A A B	A		
	社会で愛される人間力を養う	学校行事・係活動・日々の清掃等を通じて、任された仕事を自主的にきちんと行う姿勢を養う。 広い視野で物事をとらえ、自分のことだけでなく他者のために働ける力(気づく力・動ける力)を養う。 多様性を重んじる社会の一員として、他者・自己の様々な面を尊重し、受け入れる姿勢を養う。	A B A	A		
事務部	新校舎改築工事にかかる諸問題の解決及び事前準備	新校舎移転構想を具現化し、適切かつ速やかに移転できるよう、各課と情報を共有し協力して綿密な計画を立案・実行する。 工事関係業者と協力し緊密に連絡をとりながら諸問題に迅速に対応し、問題解決に努める。	A A	A	A A	<p>教職員・工事関係者と相互に協力しあうことが出来ている。会議の都度、調整を図りながら、職員への周知が行われている。</p> <p>節電に努めたことで電気のデマンド(基本料金)は下がったが、紙の削減については広く職員に周知していく必要がある。</p>
	適切な事務運営	光熱水費のほか各種予算の経費節減に努める。 移転までの老朽化した施設・財産の整備・修繕に努める。 効率的な事務を心がけ、迅速かつ正確な会計処理を目指す。 事務分掌のほか、広く自己研鑽に取り組む。	A A A B	A		

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・適切である。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・新校舎移転もあり、出願者も過去最高となった。更なる教育活動の充実を図り、品格を備えた魅力ある生徒の育成を推進する。
- ・大野城市にある県立学校として、総合的な探究の時間やボランティア活動など市や地域と連携を図る。
- ・本校生徒や保護者、同窓生、そして地域の期待に応えるべく、3年間を見通したキャリア教育の充実で進路実績の向上を図る。

評価項目以外のものに関する意見

・昔にくらべ、今は筑紫中央出身であることを胸を張って言える。今後も努力して欲しい。